



## Weltunion der Schäferhund-Vereine (WUSV)

WUSV 会長 Prof. Dr. Heinrich Meßler  
Birkenallee 23  
41063 Mönchengladbach  
Mobil: +491756879756  
E-Mail: praesident@schaeferhunde.de

Mönchengladbach, 29.07.2016

ドイツ・シェパード犬愛好家の皆様へ

この数十年来、SV の競技部門、展覧会分野及び訓練試験制度に於いて、第三者的見解から見た場合のみならず、イメージに害を与えとも言えるメカニズムや振舞いが定着して参りました。したがって、対処が必要となります。

### 繁殖展分野

体高の問題については、結果を得る事無く議論が数十年来継続されてきました。昨年度のSV 本部展に於ける自発的な体高測定実施導入が初歩的対応である。本年度の総会に於いて「繁殖プラン・体高 ([Zuchtplans Größe](#))」の実施が確認された。今後、この繁殖プランの厳格な実施が予定されている。繁殖数値導入と許容体高上限を明らかに超える体高の個体に対する直接的な制裁が実施される。これは「繁殖プラン・体高」の一語一句ゆるがせにしない実現であり、さしあたり SV ジーガー展の席次に相応の影響を及ぼすこととなる。

これら「繁殖プラン・体高」によって定義される各条件は、当然ながら全 SV 及び WUSV 行事に於いても類似した形で実現される事が義務化されなければならない。

第二の問題領域は、いわゆる鯉背 (りはい) 傾向にある背線である。大学的知識が不足する者や素人出版によって、我が犬種を誤った観点で紹介するために、(鯉背) は悪用される材料となっている。今春、英国バーミングハムで開催された、クラフト展に於ける出来事は多くの人々にとって記憶に新しいと思います。不幸にも幾つかの偶然が重なり合ったと同時に、部分的には意図的に科学的及びジャーナリズムの基本ルールが顧慮されず、我が犬種が誤った形で注目を浴びる事となった。独ギーセン大学獣医科病院によって発表さ

れた物を含む、科学的研究成果が誤って引用された。明らかに我が犬種に対する不評を引き起こすべく、効果的なジャーナリスト的手法が用いられた。全く持って正当化されない方法で、一瞬にして我が犬種は苦痛繁殖との関係性が発表された。

この複合した問題に於ける、常に繰り返し取り上げられる非難点は、世に言うところの「鯉背傾向にある背線」であり、全く持って正当化できない股関節形成不全症等の様々な病像と関連付けられる。流通する関連専門文献について知識を有する整形外科医としてこれら関連付けは、科学的根拠が全くないと断言する事が認められると思う。

その事実とは関係無く、大学の素人が誇る専門用語領域に「傾斜犬」の記憶痕跡が根強く存在するため、実状の客観化及びイメージ向上を図る対処が必要である。

当問題の対処に当たり、容易な方法として個体審査時に犬を触る事を禁止することにより、意図的に「傾斜立止」を防ぐことが可能である。この対処方法は、リングにて行われる比較審査時の犬に対して静止が求められた際の立止に於いても応用される。立止時に（ハンドラーの手による）後肢操作を認めない自然体の立止の実施により、既に数多くの論拠を打ち破る事が可能となる。

この関連で注視すべき新たな観点は「不安定な後躯」であり、よりの確に表現するならば、後肢の過剰な角度であり、大腿部と下腿部の不釣り合いな成長及び前肢との構成バランスの不調が起因する。当問題の対処方法として、確認可能な過剰角度構成を禁止し、見た目を損ねる、そして性能低下を招く当欠点を徹底的に制裁すべきである。

今後、ジューサー展の報告物に於ける写真掲載等の公式立止写真は、前記の設定条件に合う公示を心がける必要がある。実現に当たり、会員が新たな立止側望に慣れる必要がある為、様々な問題が浮上する事が予測される。

更には、競争のねじれが次の事実から生じている。即ち一クラスの評価（順位決定）が行われる重要な場面に於いて、我が犬種にとって完全に不特有な歩様である「速い速足」、より正確に言うならば「極度に早い速足」にて評価する事は慣れから起因する。この評価方法は観客に対してセンセーショナルな効果を与えること以外、畜犬学的有意性が一切無く、寧ろ非建設的な意味をなすと捉えられる。

必要な犬の注意深さや表現力は他の歩度に於いて、より容易に審査可能である。ドイツ・シェパード犬は「中位の速足」用に構成されている。解剖学や運動学について真剣に取り組み、知識を得た全ての方々にとってはなじみ深いことである。

その様に定着した審査進行により「不合理な範囲」のトレーニングを受け、そして、プロハンドラー化した出陳者によってハンドリングされる犬のほうが有利な結果に繋がるといふ（展覧会に於ける）競争のねじれが生じている。

普通の出陳者にとっては、明らかに怯ませる（展覧会に参加しがたい）と言える不利な状況である。したがって、比較審査時でのリードを弛ませた状態及びノーロープでの歩行審査は、全ての「(プロではない)普通の出陳者」が行える中位のスピードで実施される事を徹底的に注意すべきである。

## 訓練試験分野

独動物愛護法及びドイツ畜犬連盟 VDH 訓練規定に則り「2014 年訓練行事の SV 前文」の実現化に関する議論が未だに存在する。現 WUSV 世界チャンピオンがドイツ国内に於いて、使用が禁止されている補助器具と共に撮影された写真がドイツ犬専門誌の表紙を飾った事で議論が新たに誘発された。前面に置かれる倫理的及び動物保護的観点を考慮すると同時に、様々な国内法制度が存在する個々の WUSV 加盟団体による国際的な比較に於ける競争のねじれ防止の為、規定統一化が課題となる。

SV 及び WUSV の目標は、倫理的基準をドイツの秩序（即ち WUSV に於いても有効である）、独法律及び条令の枠内にて実現化しななければならない。種属に相応しくない動物愛護法に違反する訓練、飼育及びトレーニング方法の実施が指摘されたり、証明または確認可能な場合は、徹底して処罰対象とすべきである。現在この点についても法律的な実現に当たり問題が生じると予測する。

挙げた事情の客観化の為、相応の対応策を示す事は担当委員会の課題となる。

## 審査員責任範囲（SV 及び WUSV 内に於ける）

SV 審査員の活動は、協会活動の本質的な柱の一つである。何故ならば、これによって解剖学的及び訓練（稟性）分野における犬種の発展が保障されるからである。したがって、審査員活動は協会規範厳守によって特徴付けられる必要がある。

SV 本部行事の担当審査員は、前記の事柄を承諾するに当たり、理事会に対し義務宣言を行った。義務宣言の内容は、展覧会及び訓練試験規約、更に一方で 2015 年 12 月 6 日、独ランシュタインで開催された、繁殖審査員会議にて発表された SV 倫理規定が定める基準と、他方では我が犬種に対する責任意識に基づく。

義務宣言内容について添付資料の閲覧により可能である。SV、WUSV を問わず現職役員及び審査員を対象とする有効性のある模範例を踏まえた規定である。無論、我々はこれら義務宣言が SV 及び WUSV 加盟国内審査員に対し新たな直接的な問いかけを必要としなくとも拘束力を持つと見なす。

我々は実現化及び更なる発展のために、あらゆる対策を講じる予定である。

敬具

WUSV 会長

ハインリッヒ・メスラー 医学教授・博士